

メタボジェニック (MetaboGenic) 療法について

概要

メタボジェニック (Metabogenic) 療法は、10年以上前に、現在アメリカ在住のベトナム人医師である Dr. Ba Huang によって開発され、その後改良が続けられているがん治療法です。

メタボジェニック療法によれば、がんは細胞の代謝環境の変異によって、エピジェネティックな影響によって DNA が変異するとの考えのもと、細胞代謝を整えることでがん細胞を正常状態に戻すことを意図しています。

当初は経口による栄養補助剤として開発され、およそ3年前に、点滴薬及び経口内服液としても開発がされました。現時点では治療薬は3種類あり、A剤とC剤の2種類の医療用栄養補助カプセル剤と、Z剤と呼ばれる点滴及び内服用液があります。

MD/PhDのDr.Baはベトナム人で現在開発は米国(南カリフォルニア大学)とベトナムで行われています。

メタボジェニック療法は、従来の抗がん剤と異なる治療原理であり、治療に使用する成分に抗がん剤のような副作用が見られないため、人への症例が米国・ベトナム・ベラルーシですでに数多く蓄積されています。

作用原理的に、がんの種類を選ばず効果が確認されています。例えば肝臓転移を伴う膵臓がんでは、3年以上の治療患者追跡が行われ、通常治療では1年後の生存率18.3%、生存期間中間値で4.7ヶ月のところ、栄養補助剤(A剤+C剤)のみでの治療で1年後の生存率77.8%、生存期間中間値で14.6ヶ月という結果を得ています(詳細資料ご参照ください)。

3年の追跡がまだ未完了ですが、点滴薬による治療では更に高い結果を得ています。

特徴をまとめると次の通りです。

- ・ 固形がん・血液がんのようながんの種類を問わず効果が見られる。
- ・ 抗がん剤に見られるような副作用が無い。
- ・ 従来の方法に比べて比較的安価に治療が可能であり、患者の経済的負担が少ない。
- ・ がんに伴う痛み等の症状の軽減が見られるため、患者のQOLの向上に繋がる。
- ・ 食事として投与できるため自宅や医療機関から遠隔地でも治療可能。
- ・ 通常の治療期間は2ヶ月から3ヶ月だが、投与後10日ほどで患者本人が自覚できる変化が生まれることが多い。

Dr.Ba について

ベトナム・ハノイ出身。国費留学生として St. Petersburg Medical Academy で医学博士取得。その後、ベトナム・ベラルーシ・米国で治療法の研究と臨床に従事。Royal Holloway University of London、the St Petersburg Pediatric Academy、University of Southern California で研究に従事し、the American College for the Advancement in Medicine、European Academy of Clinical Pediatric Allergy、International Association of Mucosal Immunology and the Allergy Research Group のメンバー。

製品について

A 剤（医療用栄養補助剤）

成分：クルクミン入り活性炭、有機ゲルマニウム、ヨウ化カリウム、グルコン酸マンガン、リグナムサパンエキスなど。

進行したがん患者向け標準的使用法：毎食前 3 カプセルを服用。

C 剤（医療用栄養補助剤）

成分：リボフラビン（ビタミン B2）、アスコルビン酸（ビタミン C）、メチルスルホニルメタン（MSM）、グルコン酸マンガン、L-カルニチンフマル酸塩など。

進行したがん患者向け標準的使用法：毎食後 2 カプセルを服用。

Z 剤（点滴・内服液）

成分：特許申請中成分（今年度中に特許内容開示により成分公開予定）

使用法：Z 剤 10 ml を 500 ml の 0.9% 生理食塩水で点滴液を作り、毎秒 1～3 回程度（約 1 時間程度）の点滴速度で患者に点滴する。または、Z 剤 3ml を 100 ml の水に混ぜ、1 日 3 回から 5 回、食間に飲用するという方法も可能。

がん以外の治療について

固形がん以外にも原理的に各種病気に効果がある。COPD（慢性閉塞性肺疾患）、MDS（骨髄異形成症候群）、Mylofibrosia（骨髄線維症）への効果は確認されています。

以上。